

## 照射部位の左右間違い防止の工夫

浜松医科大学 中村 和正先生

概要： 照射部位の左右間違いをどのように防ぐかは重要な問題である。

我々は、放射線治療の説明・同意書は、部位別のものを用意しており、それぞれに照射部位のシェーマを示して、照射野を記載して患者に説明することとしている。その際、部位別のすべてのシェーマには、「みぎ」「ひだり」と、ひらがなで大きく記載しており、左右を確認する機能を持たせている (図)。

この説明・同意書を用いることにより、医師も説明時に照射部位の左右をはっきり認識できる。また、患者も、照射範囲を認識できることに加えて、「みぎ」「ひだり」を明確に確認することにより、万一医師が照射部位の左右を間違えて認識していた場合にも、患者自身のチェック機能が働くこととなる。

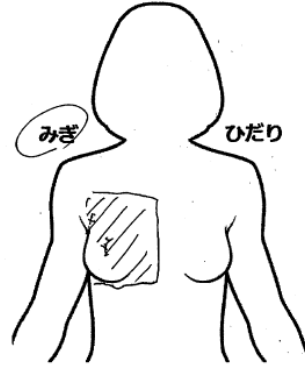
我々は、説明時に照射部位のシェーマを患者自身に示すことは、患者自身に放射線治療部位を理解してもらうことに加えて、医療安全上、必須のステップと考えている。

\*治療部位のサンプルは、平成 24-25 年度 JASTRO 研究課題「放射線治療に際して患者より取得する説明同意書の収集とテンプレートの作成」(研究代表者佐々木智成先生)でも作成され、ホームページで公開されています。

<http://plaza.umin.ac.jp/rt-setsumeidou/>

## 乳房照射の例

放射線をあてる範囲



### E. 合併症・偶発症

放射線治療の副作用は、治療期間中～治療後比較的早期に起こる副作用（早期有害事象）と治療後数ヶ月から数年後に起こる副作用（晩期有害事象）に大きく分けられます。副作用の内容や程度は、治療する部位や範囲などにより異なります。

ここに示す副作用が必ず起こることではなく、また、それぞれの副作用が起こる頻度やその程度は、放射線をあてる範囲や放射線の量により異なります。

#### 治療中に起こる副作用(有害事象)

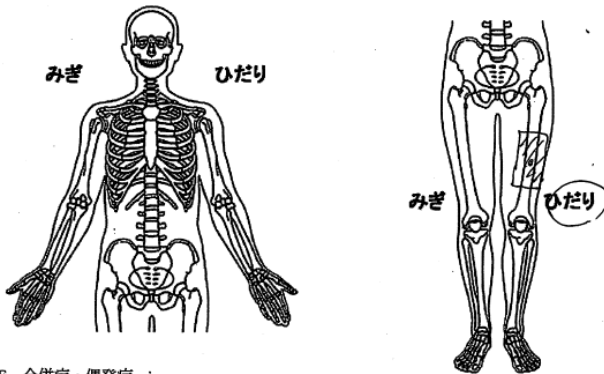
- 放射線皮膚炎、色素沈着
- △ 全身倦怠感、食欲不振、吐き気
- △ 白血球減少、他の血球成分の減少

#### 治療後数ヶ月から数年後に起こる副作用(有害事象)

- △ 手・腕のむくみ
- ・放射線肺炎、肺線維症 (まれ)
- ・心外膜の炎症、線維化 (まれ)
- ・心臓機能の障害 (まれ)
- ・肋骨などの骨折 (まれ)
- ・発癌 (きわめてまれ)

## 骨転移の例

放射線をあてる範囲



### E. 合併症・偶発症

放射線治療の副作用は、治療期間中～治療後比較的早期に起こる副作用（早期有害事象）と治療後数ヶ月から数年後に起こる副作用（晩期有害事象）に大きく分けられます。副作用の内容や程度は、治療する部位や範囲などにより異なります。

ここに示す副作用が必ず起こることではなく、また、それぞれの副作用が起こる頻度やその程度は、放射線をあてる範囲や放射線の量により異なります。

#### 治療中に起こる副作用(有害事象)

- 放射線皮膚炎
- △ 全身倦怠感、食欲不振、吐き気
- △ 白血球減少、他の血球成分の減少

#### 治療後数ヶ月から数年後に起こる副作用(有害事象)

- 皮膚潰瘍 (まれ)
- ・関節障害 (まれ)
- ・神経麻痺 (60 Gy 以上)
- 軟部組織、筋肉の萎縮 (まれ)
- ・発癌 (きわめてまれ)
- (17βの薬物) 骨の成長障害